

## 長期戦略:テーマ

「教育の長期的成果の検証  
学修成果を把握・評価する仕組みの構築」

提出日 2022年 8月 24日

担当部署

## II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	小野総合企画部長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	総合企画部(IR室)
-----------------------	---------------------	---------------	------------

## 1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(1)-④ 卒業生/卒業時調査の企画・実施	2018年度	2023年度	必要なし	不要
<b>内容</b> <p>本学では、大学教育の成果を検証して改善に結びつける PDCA サイクルを持続的に循環させる観点から、在学時の学修成果に加え、卒業後も含めて教育成果として捉え、在学時の学修成果の修得、卒業段階での就職・進路決定(質の高い就労)、卒業後の「真に豊かな人生」の実現という三つの段階・視点で教育の成果を把握し、IR 機能を活用して、その検証に取り組む。</p> <p>学生調査については、大学 IR コンソーシアムの共通学生調査を 2010 年度から実施しており、2014 年度から全学部において、1・3 年生を対象に実施している(学部によっては、2・4 年生も対象としている)。卒業生調査は 1999 年度から本学独自に 6 年ごとに実施してきたが、2013 年度からの 3 年間は大学間連携共同教育推進事業への参画等により、調査項目を見直しながら実施した。2017 年度より、調査回答者を学生時代に遡って関連付けて実施できるよう記名式で実施している。</p> <p>これらに加えて、卒業段階での状況を把握するため、卒業時調査を実施する。なお、卒業時調査については、2018 年度から実施可能なよう準備を進める。</p> <p>学生調査、卒業時、卒業生調査は、質問項目を関連付けながら、項目の見直しなども継続して実施してゆく。</p> <p>(卒業生調査の実施については、学校経営 テーマ2. Evidence-based Management の推進で実施する。)</p>				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	卒業時調査の回収率	回収数 / 卒業者数		
指標2				
指標3				

## 目標1&lt;指標1&gt;卒業時調査の回収率

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	70%以上	90%以上	90%以上	95%以上	95%以上	95%以上
実績	2018年度) 90.26% 2019年度) 32.28%	85.68%	85.30%			

## 目標2&lt;指標2&gt;

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標						
実績						

## 目標3&lt;指標3&gt;

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標						
実績						

## 2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
卒業時調査の企画・実施	策定段階	調査の実施	調査の実施	調査の実施	調査の実施	調査の実施
	2023 年 3 月 末段階	調査の実施	—	—	—	—
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階	調査の実施	調査の実施	調査の実施	調査の実施	
	2023 年 3 月 末段階					
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階					
	2023 年 3 月 末段階					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階					
	2023 年 3 月 末段階					

## 3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	左記以降
非公開							

## 4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	2019 年度新入生アンケートと 2018 年度卒業時調査の結果を用いて、Kwansei コンピテンシーの各項目がどの程度身についたかを比較した。 (学生番号を紐づけて入学時と卒業時で比較できるのは 2022 年度卒業生調査以降となる。) なお、2019 年度卒業時調査は、卒業式の中止により郵送による配布・回収としたため、回収率が大幅に減少した。
2020 年度	2020 年度は卒業式が実施され、調査票の対面での配布が行えたため、目標である 90%の回収率は達成できなかったが、85%以上の回収を達成した。
2021 年度	2021 年度も卒業式が実施され、調査票の対面での配布が行えたため、目標である 90%の回収率は達成できなかったが、85%以上の回収を達成した。また、集計結果は7月の学部長会でも報告することができた。
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

## 5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	2018 年度卒業生を対象に実施した卒業時調査は、回収率が約 90%と当初想定を大きく上回る結果となった。今後も 2018 年度の実施方法を踏襲しつつ、高い回収率を維持するよう努める。
2020 年度	今後も継続して卒業時調査を実施する。2018 年度の実施方法を踏襲して実施する予定だが、卒業式のプログラム等が変更となる場合は、それに合わせて配布・回収方法を検討する必要がある。
2021 年度	今後も継続して卒業時調査を実施する。各種調査の分析結果の報告を 2021 年度から学長室会で行っているが、その体制については見直し・充実を図る必要がある。
2022 年度	今年度から Web 調査に切り替えるが、回収率を維持するためには各ゼミ担当教員の協力関係が大切になってくる。各学部との連絡・調整をしっかりと行っていく。
2023 年度	
2024 年度	

## 6. 学院総合企画会議の基本方針

2019 年度	卒業時調査の実施を認めます。ただし、概算費用については保留とし、2018 年度実施分の検証を必ず行い、詳細が定まった段階で、将来構想推進 WG での承認を得た上で、予算外申請してください。
2020 年度	卒業時調査の実施を認めます。
2021 年度	卒業時調査の実施を認めます。
2022 年度	—
2023 年度	
2024 年度	

## 7. Total Review の結果

## 【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
・2018 年度より卒業時調査を開始し、2019 年度には卒業生調査を卒業後 56 年目に拡充したことで、2019 年度には各種調査の全体設計が完了したが、2022 年度以降の調査実施頻度の調整が必要。	継続 ・ 廃止	・各種調査の実施頻度の再検討 ・各種調査の分析結果のフィードバック

## 【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	